



SCB

# ニュース&トピックス

No.2024-87

(2024.10.28)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 西 俊樹

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

## データで読み解くこれからの信用金庫経営 (29) 預金利回

—信用金庫の預金利回は他業態に比べ高い水準にある—

### ポイント

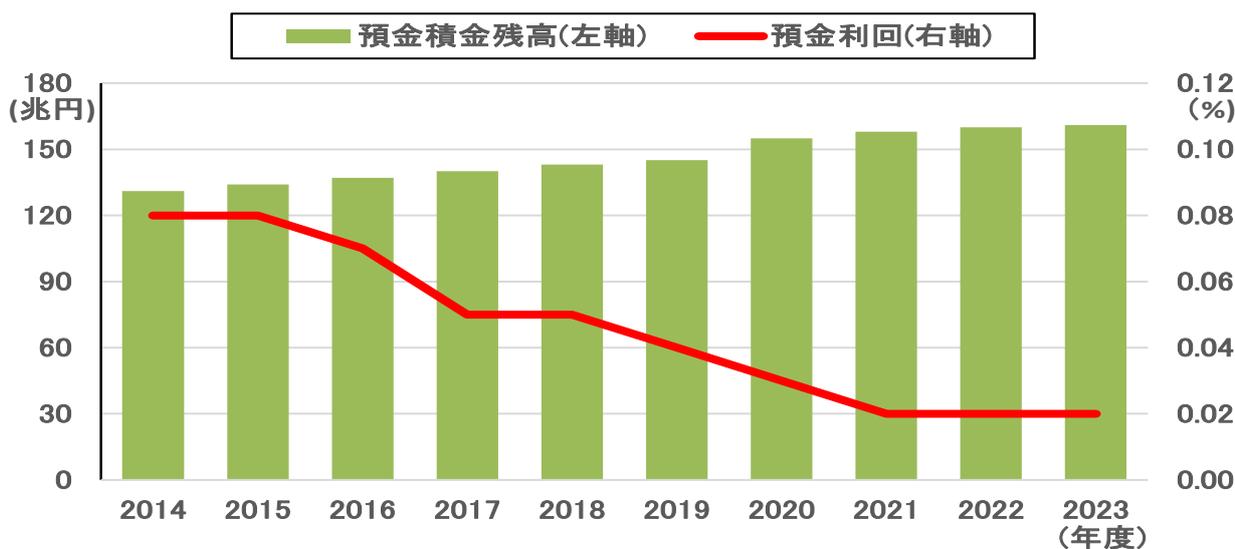
- 2023年度の全国信用金庫の預金利回は、前期と同じく0.02%となった。過去10年間における推移をみると、預金積金残高は増加傾向にあるが、預金利回は低下傾向にある。
- 業態別では、各業態とも低下しているが、信用金庫の預金利回は、都市銀行、地方銀行、第二地方銀行に比べ最も高い水準で推移している。
- 信用金庫別に過去5年間における預金利回を2期間比較(2019年度と2023年度)で確認したところ、2023年度では0.01%以下の信用金庫が多くなっており、全体的に低下傾向がみられる。

### 1. 預金利回(全国)の状況

本稿では、全国信用金庫の預金利回((預金利息+譲渡性預金利息)/(預金積金(平残)+譲渡性預金(平残)))を確認する。

2023年度の全国信用金庫の預金利回は、前期と同じく0.02%となった。過去10年間における推移をみると、預金積金残高は増加傾向にあるが、預金利回は低下傾向にある(図表1)。

(図表1) 預金利回(全国)の状況



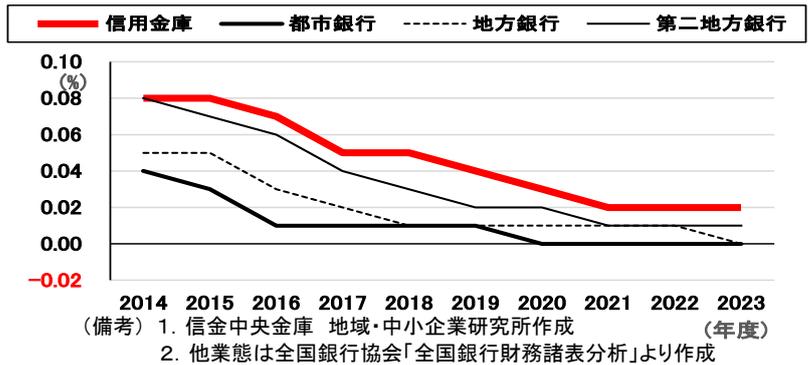
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

## 2. 業態別の状況

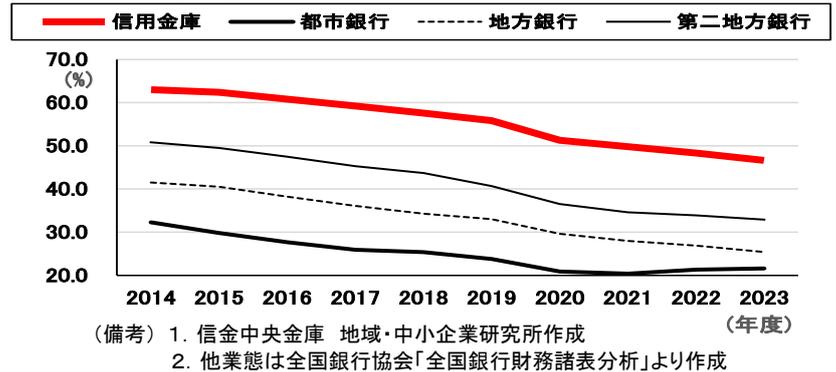
業態別の過去 10 年間における預金利回の推移を示す(図表 2)。各業態とも低下しているが、信用金庫の預金利回は、都市銀行、地方銀行、第二地方銀行に比べ最も高い水準で推移している。

次に、業態別の過去 10 年間における定期性預金比率の推移を示す(図表 3)。各業態とも低下しているが、信用金庫では定期性預金の構成比が他業態に比べて高い水準で推移している。定期性預金は粘着性が高いものの、要求払預金に比べて利率が高いこともあり、結果として預金利回が高い水準となる。

(図表 2) 預金利回(業態別)の状況



(図表 3) 定期性預金比率(業態別)の状況



## 3. 信用金庫別の状況

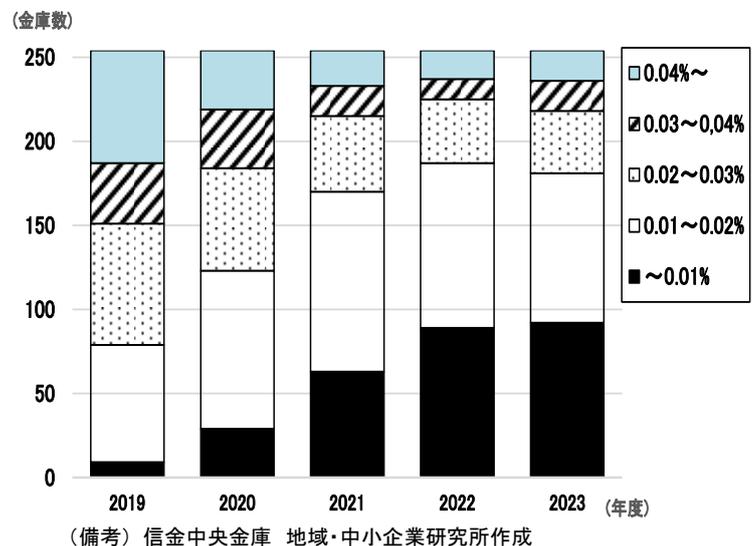
信用金庫別に、過去 5 年間における預金利回の推移を示す(図表 4)。

推移状況では、2019 年度は 0.02%~ (図表 4) 信用金庫別の状況

0.03%以下の信用金庫が最多であったが、2023 年度では 0.01%以下の信用金庫が多くなっており、全体的に低下傾向がみられる。

また、2 期間比較(2019 年度と 2023 年度)で預金利回の動きを確認したところ、上昇 11 金庫、低下 243 金庫となっており、低下金庫が多い状況となっている。

今般の分析の結果、信用金庫の預金利回は低下傾向にあったが、今後、本格的な金利上昇が見込まれ、預金利回も上昇することが予想される。「金利のある世界」への転換期にあたり、預金獲得戦略の見直しが求められることになるだろう。



以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。